

※一部非公開

令和二年度入学試験問題

(推薦入試Ⅱ)

小論文

人文社会学部

琉球アジア文化学科

注 意 事 項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないように注意すること。
- 四、解答時間は、一二〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

問題

次の文章を読んで、あとの問題に答えなさい。

非公開

非公開

非公開

非公開

(鷺田清一, 『待つ』ということ, 角川選書三九六, 二〇一七年改訂版, 十一〜十九ページ, 抜粋・一部改変)

問一

傍線部「抱きながら、消す。この振幅が、じれったさということを（待つ）にもたらす。」という部分の意味を、筆者の論旨に沿って、六〇〇字以内で説明しなさい。

問二

波線部「その意味で、『プロ』に象徴される前のめりの姿勢は、じつは（待つ）ことを拒む構えなのである。」という部分について、あなたの考えを六〇〇字以内で述べなさい。

令和二年度入学試験問題

(推薦入試Ⅱ)

小論文

人文社会学部 琉球アジア文化学科

出題の意図

琉球アジア文化学科は、琉球・沖縄および日本・アジアの諸地域の言語・文学・歴史・民俗への理解を深めることを目指している。したがって、この学科の入学希望者には、これら諸地域の文化への深い関心はもとより、そうした文化を生み出す社会の仕組みへの持続的な探究心が要求される。問題文は、現代社会における「待つ」という行為や「待つ」という感覚を持つことの困難さを述べつつ、あえて「待つ」こと、それ自体のあり方を様々な側面から考察している文章である。前のめりの姿勢は未来志向に見えて、実際は未来を視野に入れておらず、現在の枠組みの中で一刻も早く決着をみようとすする不寛容な構えである。「待つ」という行為は、「応え」の保証がないところで、起こるかもしれない出来事をいつか受け入れられるよう身を開いたままにしておくことである。本出題の意図は、このような「待つ」という行為や感覚を捉えなおすことについて述べた文章を正確に読み取り、論旨を的確に把握できるかを問うことにある。本文の内容をふまえた上で、本学科の研究分野である歴史研究・文学研究・言語研究・民俗研究の分野において、問題文であげられているさまざまな「待つ」の構えをどのように捉えることができるかについて論述させることにより、受験生の理解力、および独自の発展的な思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。